

2023年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [池谷 学]

学年・組・番号 [1年 F組 21番]

研究課題: いわゆる「請来様」の愛染明王図像についての研究

(英文) A study of *Aizen-Myō ō* iconography brought from Tang

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200~400字で記入してください)

本研究は請来様として伝来する愛染明王図像について、それらが依拠する経軌を調査するものであって、最終的にそれらの相承を詳らかにすることを期待するものである。

研究対象は、武藤金太氏旧蔵『三面愛染明王曼荼羅』と醍醐寺蔵『愛染明王集』であって、醍醐寺本については原本調査を期待しているが、武藤氏本は所在が知られていないことより、大正新脩大蔵經に所載のものを用いる。また、請来された什宝のうち、愛染明王に関連するものの凡そを把握するため、宗観『新書写請来法門等目録』、安然『諸阿闍梨真言密教部類総録』、親尊『録外經等目録』の三つの目録を用いる。依拠する経軌についての議論は、大日本統蔵經に所載の『秘密要術法』を中心に行う。また、『覚禪鈔』等の裏書を用い、図像の相承を詳らかにする。

本研究においては、図様が我が国の先徳の意樂に基づくかによってこれらの理非を峻別せず、客観的に研究をすることで価値を再考する。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200~400字で記入してください)

醍醐寺蔵『愛染明王集』については、寺院側によって刻下調査中であることによって、原本調査に及ばなかったものの識語、画註についての凡そを理解することができた。また、武藤金太氏旧蔵『三面愛染明王曼荼羅』については予てよりその依拠する経軌として知られていた『秘密要術法』によって図様の凡そを比定することができたものの、中尊の持物については相違が見られることが分かった。円珍の請来とするこの図様の相承については『覚禪鈔』においてその記述が見出すことができ、白河院の有馬への御幸に際して藤原為隆によって献上された図像であったことが分かった。しかし、図像の制作に携わったとされる覚猷はこの図様の由緒を知らず、恵什によると請来様ではなく、定深の意樂であるとしたほか、観雲は偽物と定めたとしている。以上のように、意樂乃至日本撰述偽經に依拠する図像について、その相承の凡そを知ることができ、現存することの価値を見出した。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 池谷 学

研究分担者

担当教諭 渡邊 信幸

(受給額：20000円)

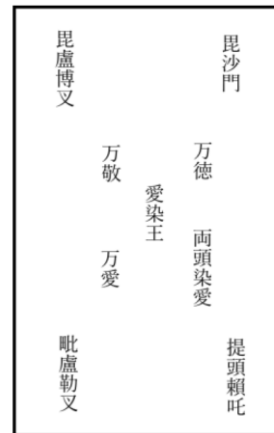
※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)

秘密要術法
三藏阿謨伽詔譯
二手普通合掌當胸間真言曰是神呪不可思議
不過七返一切所求願皆悉決定圓滿復斷元品無
明階妙覺位凡諸佛菩薩種種神呪法持者悉地不
成就類修行此法者彼一切悉地速疾成就獲得復
次說畫作像并曼荼羅法建立三重內院愛王其形
四面有每面五目所謂額一目左右本目下各一目
首戴寶冠髮如火焰身色白色少青色有四臂左一
手持弓上空右一手持箭當胸間合為射七星相也
左二手令取彼右二手持白蓮華打彼勢也有四足
左二足上置右二足下垂踏人蓮華凡坐白蓮華住
日輪彼座下有四面師子四足下各踏蛇其師子從
口雨如意寶珠逆上次中院兩頭染愛菩薩其形兩
頭左白右赤有四臂左右一手作刀印次左右作持
三骷髏坐赤蓮華住日輪是名東方為復有萬愛
菩薩其形三面三目柔軟白肉色合掌坐白蓮華住
日輪是南方為復有萬愛菩薩其形一面赤黑色
持弓箭坐黃蓮住日輪是名西方為復有萬德菩
薩其形如吉祥天女左右持鬘樓坐紫蓮華住日輪
是名北方為復有萬天王有四面所謂東南角提頭賴
吒天王其形青色有三面如藥叉王身著甲冑有四
臂左一手持鐸右一手持刀下二手合掌乘青龍西

『秘密要術法』翻刻文、一部



『三面愛染曼荼羅』配置図

以上